

第7回 市民懇談会が開催されました。

第7回市民懇談会の内容

開催日
平成 15 年 11月26日
開催場所
市川市教育会館
参加者
35 名参加
議事次第
第 6 回市民懇談会以降
の策定経過報告
素案の概要説明
意見交換
今後の進め方について

昨年度、「みどりの基本計画」策定に向け、6回の市民懇談会を開催し、多くのご意見を頂きました。メンバーからのご意見の計画への反映、関係各課との調整等を重ね、第7回市民懇談会で「素案」という形で、ご提示することができました。

素案について、メンバーからいただいたご意見、ご提案内容については、今後の策定委員会にて協議していききたいと思います。最後に、懇談会メンバーから策定委員会委員の選出が行われ、4名の方が選ばれました。

選出された策定委員会の市民委員は、以下の方々です。

学識経験者：浅野義人教授 北東部：大塚功一さん 北西部：中村一郎さん 中部：阿部武弘さん 南部：高木史人さん

《素案の構成》

第1章	計画の目的、計画の対象とする緑、緑の効果・機能について	第5章	地域別計画方針(4地域別に重点化する施策の展開)
第2章	緑の現況と課題について	第6章	緑化重点地区及び保全配慮地区
第3章	計画の基本理念、将来像、基本方針、4系統別配置計画	第7章	実現化の方針(アクションプランの推進等)
第4章	基本的な施策(69本の施策を展開)		

《市民懇談会の様子》



市民メンバーからの主なご意見	素案への反映
駅前のビル等にも緑地スペースを設けていただきたい。小さな空間でも、緑のあるスペースがあるとよい。20年後には、地下など直接日光の入らない場所でも、人工のそういうスペースができると思う。また、地球温暖化への対策なども考えなければならないと思う。	小さなスペースに緑を設けるということについては、この計画ではポケットパークということで記載しています。
緑地率、緑化率、緑被率とあるが、どれかに統一して示せないか。	緑被率と緑地率の違いは、括りが違うということで解釈していただきたいと思います。巻末に用語解説を付けて、文章中には極力整理された形で表現したいと思います。
アクションプランの推進というところが、きわめて重要。PDCA サイクルを公開することが必要なのではないか。2025年の目標に向けて、進行管理をきちんとしていくことが必要。	アクションプランについては検討を進めています。PDCA サイクル等の検討を行い、計画書に示したいと思います。
現状をどう評価するかということが、基本計画のいちばん重要なところだと思う。現状の緑について、提示の仕方が足りないのではないか。樹林地等の図面ももっと大きくして、市民が分かるくらいのものがほしい。また、それを守っていくことが必要だと市民に分かってもらうことも必要。	私どももPRの機会だと思いますので、市民の方々に知っていただくような資料として、現況説明の充実を図りたいと考えています。
北東部について、保全配慮地区に指定され、ありがたいことだと思うが、大町レクリエーションゾーンの整備は更に進めていただきたい。里山や斜面林の管理者からの申し込みもいろいろあるかと思うが、緑は作るよりもなくなる方が速いので、公的機関に容易に受け入れられるような体制を早く取っていただきたい。	大町レクリエーションゾーンの整備については、十分検討していききたいと思います。
近隣の松戸市、鎌ヶ谷市、船橋市、浦安市などのつながりを考えると視野が広がると思う。	他市ではそういうことは全く記載されていませんが、近隣市との連携についても、考えていきたいと思っています。
農地の保全について、目標年度までどのくらい守れるのか、減っていくのかなどの見通しを調査していただきたい。	最終目標で、できるだけ多くの農地を保全する施策の検討を進めていきたいと思っています。
緑のNPOの活動をアクションプランの中に取り込んでほしい。また、緑の基本計画からお金を得るような施策があってもよいと思う。例えば市民農園や、樹木の配付などできないか。緑の基金のようなもので、自分たちの手で何かしら作るような体制もできるのではないか。	NPOの関連や、市民農園、樹木の配付については、やはり市がお金を出すだけでなく、お金を得ることが大切になってくると思います。お金を得る部分についても考えていきたいと思っています。
緑の確保目標数値について、やはり現実的な数値にしないといけないと思う。できたかできないか、最後の評価はやはり数字だと思います。現実的にはこれくらい、という数字をあげた方がよい。	全国の緑の基本計画をみると、現実派と理想派に分かれます。緑の基本計画ですから、最終的な目標(平成37年度数値)はこれでよいと思います。そのために中間で見直しを加えて、是正していただくことが必要なのだと思います。今はただ直線で上がっていく目標値になっていますので、工夫が必要だと思います。
都市公園の面積をここまで増やすのは、現実的ではないと思うし、ただ公園の面積を増やせばよいという時代ではない。いかに効果的に市民が利用できるか、利用している公園というものを評価し、使われていないところはどうしたら使われるようになるかを考えなければならない。	公園の計画では適正配置も行います。また、リニューアル化は行徳周辺を中心に始めていますが、近々全域に広げて特色ある公園緑地の整備に努めていきたいと思っています。
研修をして保全リーダーを養成したり、緑のドクターなどを使って管理をしていくことも大切だと思います。スペースを広げるだけではなく、樹木が地球温暖化の影響を受けることも多いでしょうから、管理の面も計画の中に入れていただきたいです。アクションプランがあるので、その中に入れていけばよいと思います。	緑のドクター制度なども必要になってくると思います。市だけでなく、市民とのパートナーシップや、そういう方々との連携が必要になっており、施策にも謳っていききたいと思います。